



瑞穂

農業と福祉の融合 ユニバーサル農業への挑戦

京丸園株式会社 代表取締役 鈴木 厚志(86回卒)



この度、全国農業協同組合中央会、NHKが主催する「第48回日本農業賞」個人経営の部で大賞を受賞させていただきました。

(日本農業賞は、日本農業の確立をめざし、意欲的に経営や技術の改善に取り組み、地域社会の発展に貢献している農業者と営農集団を表彰している。)

今回の受賞理由は、障害者や女性、高齢者の積極雇用を行い「ユニバーサル農業」の実践と姫ねぎ、姫みつば、姫ちんげんなど小型野菜のブランド化、法人設立15年で売上を4億円に伸ばしたことを評価していただきました。

受賞は、本当に多くの方々への支えによるものでありあらためて心からお礼申し上げます。そして、伝統ある磐農「瑞穂」に執筆の機会をいただきましたので私の農業を振り返ってみたいと思います。

農家の長男に生まれて

私は、1964年浜松市南区に農家の長男13代目として生まれました。父（啓之）が、磐農水泳部、58卒だったことで私の進路は磐農へ行って農業を継ぐと自然に決まっていました。農業を継ぐことはなんの迷いもなくむしろ自分の進む道だと希望を抱いて磐農へ進学。振り返ると高校時代が自分の基盤となっています。思い出は数々ありますが今回はふたつの宝物を紹介します。

ひとつは、高品性・重労働の校訓。品性を高し労働を重んずるという理念をいただきました。

何のために生きるのか？どう生きるべきか？という羅針盤を手にすることができました。

私なりの解釈ですが、働きを重んずるとは「働くとは、人の役に立つこと」、品性を高くとは「見苦しくない生き方をする」と捉えています。昔も今も道をそれればかりの私ですがこの校訓のお陰で軌道修正することができます。

そして、もうひとつは人生のパートナーをいただきました。磐農へ行かなかったら妻（86卒）と出会うことは無かったと思うとこれは重要事項です（笑）。現在妻は、農園への出資もしてビジネスパートナーとしても経営に参画しています。

卒業後、農林短期大学校へ進み20歳で就農、私の農業人生が始まります。

障害者との出逢い

私が、30歳のとき障害のある息子さんと母親が面接にやって来ました。障害者が農業をするのは無理と思っていたのでお断りをすると、母親が「給料はいらぬから働かせて欲しい」と言って頭を深く下げました。母親の言葉は、働くとはお金を稼ぐためのものではなく自分の力が人の役に立つことであり、給料は相手が喜んでくれた時の御礼なのだと教わりました。「障害があってもこの世に生を受けたからにはこの子にきっと役割がある。その役割を果たしたい」と必死に働き場を探す姿は今でも忘れません。

障害があっても労働を重んずる彼らと共に農業を行うことで誰もが参画できる農業をデザインしようとユニバーサル農業が誕生しました。

農業分野に福祉のきめ細かい作業指示のノウハウを取り入れることで農作業の効率化や作業精度を上げることができました。一年にひとりずつですが障害者を農場に迎え入れることで私たちの農業は大きく変化していきました。

多様な人が活躍するアグリビジネス

障害者と出逢って25年、法人化して15年となりました。現在83歳から16歳老若男女が100名となりうち25名が障害者、多様な人達が活躍する農園となりました。

農業は、野菜を生産する産業にとどまることなく農業の持つ包容力を活かし地域福祉や医療の役割を果たせることが期待されています。農業が進化し「食べる・働く」健康創造産業へと進化することを夢見ています。最後に磐農歴代先輩方に伝統を繋いでいただき感謝すると共に後輩達が農業という切口で新たな時代に道を切り開いていくことを期待しています。



会長 鈴木啓之 社長 鈴木厚志 総務 鈴木緑



地域を支える人づくり

同窓会頭 57回卒 藤 森 進



連日暑い日が続いておりますが、同窓会員の皆様にはお変わりなく、益々御健勝にて御活躍のこととお喜び申し上げます。

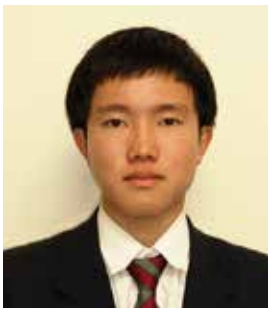
本校は、明治29年地域の期待を担って「中遠簡易農学校」として見付の地に設立されました。県立高校では5番目、農業高校としては県下最初の学校として発足し、明治、大正、昭和、平成と4代に亘り建学の精神にのっとり地域に大きく貢献して参りました。その間、明治37年には、人間形成の真髄を貫いた「高品性」「重労働」の校訓を制定し、この教育理念のもと農業の発展、社会の発展に尽し、「地域の木鐸」として地域に貢献できる豊かな人格を持った人材の育成を目指し教育を進めて参りました。その教えを受けた卒業生21,355名（S24年新制高校以後の卒業生15,469名）は「地域の木鐸」となって、各分野で活躍されておられます。さて、令和の時代に入り、過去を回顧して発展の踏み台とし、新しい磐田農業高校を構築しなければなりません。わが国農業は、今、大きな曲がり角に立っています。若ものが希望を持てる「強い農業」、「美しく活力ある農村」の実現に向けて、

常に技術の革新や社会の動向に留意しつつ、積極的な攻めの教育をしていかなければならないと考えております。

「農は国の基」と言われるようにいかなる時代や環境になろうとも最も重要な産業は農業であります。その農業は、農業従事者が減少し、高齢化が進んでいます。静岡県では半数が70歳以上の高齢者になっています。日本農業は家族農業が98%ですから、後継者がいない限り、農家は確実に減少します。一方、2050年には、世界の人口は、90億人を超え、食糧危機がいつ来てもおかしくない状況です。国連のFAO食糧農業機関の調査によると慢性的な栄養不足に苦しむ飢餓の人は8億1,500万人、人類の9人に1人になっています。同時に地球規模による環境破壊が憂慮されています。それ故に、土に生き、地域の緑の美しい景観を守り、育てる担い手が必要であります。また、国際的な視野を持って農業を見ることが求められます。長く続けてきたブラジル生徒派遣交流事業に変えて、台湾との交流事業を来年度から実施する予定です。これらの事業は若い後輩の皆様方がしっかり地域のためになっていく、人づくりに役立っていく事業であると思っておりますので、今後も海外教育協力会に対して、同窓会として支援をして参りたいと考えています。会員の皆様方の御支援と御協力をお願いいたします。

新同窓会員より

122回卒 杉 山 貴 哉



磐田農業高等学校に入学してから、3年という月日が経ち卒業式を迎えることができました。入学から卒業まで同じ時間を過ごしてきたクラスメイトはそれぞれ自分の決めた道へ、進んでいこうとしています。磐田農業高校で学んだことを就職先、進学先でいかすことができるようにこれからも頑張っていこうと思います。

私が生徒会に所属したのは1年生の頃でした。入ったキッカケは特に生徒会に興味があったわけでもなく、どんな感じなんだろう？というような好奇心だけで所属することになりました。放課後の暇つぶし程度だろうと思っていましたが、いざ入ってみると仕事が思ったよりも多く何から手をつければ良いのか全く分かりませんでした。先輩や先生の指示を受けて動くのが精一杯でした。自分から行動に移すことが上手くできないまま1年が終わってしまいました。

2年生になってからは後輩ができ仕事を教わる側から教える側に立場が切り替わりました。自分なりに丁寧に教えることができました。2年生の中盤に私は生徒会長から「生徒会長をやってみない？」と言われました。そ

の時はとてもおどろきました。仕事も全然できない自分が生徒会長を務めるなんて想像もできませんでした。最初は務まるわけが無いと思い断りましたが先輩だけでなく同級生からも背中を押され、押しに弱い私は生徒会長に就任することを承諾してしまいました。いざ生徒会長になってみて一番感じたことはとにかく責任です。すべての行事を運営しているため全責任が自分にあると思うと不安になりました。時に自分だけがかかえこみすぎてしまっていると同級生がいつも助けてくれました。頼りない生徒会長でしたが自分なりに努力しここまでこれたことはとても嬉しいです。

生徒会長という貴重な体験をし、この3年間、自分自身が成長できたと思います。この先の困難も磐田農業での経験でどうにかなるはずで、これからは前を向いて生きていこう！



答辞を読み上げる杉山さんと那須野前校長

「不易と流行」

校長 望月 康 弘



同窓生の皆様には、日頃より本校の教育活動に対しまして、御理解と御支援を賜り、心より感謝申し上げます。

私は、本年4月に、静岡県立磐田農業高等学校第28代校長として着任いたしました。磐田農業高校には、12年ぶり2回目の勤務となります。また、

父（47回卒）の母校であることから本校への思いは強く持っているところであります。昨年他界いたしました父からは、「中泉農学校」の話をよく聞かされました。磐田市民文化会館は、在学当時田んぼだったので田植えをしたこと、現在はミカン山となっている丸山古墳は茶園だったので茶摘みをしたこと、府八幡宮で見付中学校の生徒と喧嘩した話なども思い出深げに話してくれたことを思い出します。特に、大日山での山林実習の話は何度も聞かされました。作業服に足元はゲートル、近くの駅から大日山まで歩き、下草刈りや枝打ちなどの作業が大変だったことや、昼はメンパに詰めた御飯と煮豆のみだったことなど、その記憶は90歳を過ぎても鮮明のようでした。現在も続けられている大日山での集団宿泊研修や農業実習等の伝統と重みを感じるところであります。

本校は、明治29年の開校以来、明治・大正・昭和・平成、そして令和へと元号が変わる本年、創立123年目を迎える「長い歴史」と「輝かしい伝統」をもつ農業高校として、確固たる地位を築いてまいりました。卒業生の多くは地元を中心に、地域や国内外における産業社会を支える人材として活躍されており、社会において高い評価をいただけてきました。これも本校の教育のねらいとして引き継がれる、校訓「高品性」「重労働」（品性を高うして、労働を重んずる）のもと、心を豊かにする教養と農業の知識や技術・技能を身に付け地域や産業社会の発展に貢献できる心豊かで、人間性あふれる人材を育成することにあります。

本校での学びを通して、高い志を持って知性を磨き、汗を流して学ぶことを楽しいと感じながら、農業に関する専門的知識や技術・技能を身に付け、各種の検定・試験等の資格を取得し、学校での生活指導の中から社会生活におけるルールとマナー・モラルを学び、自分の心と体を大きく成長させていきます。豊かな人間性に裏付けられた健全な心の持ち主として、社会の発展に寄与する人材を育成する本校の教育は、まさに「人」をつくる、全人格教育とキャリア教育であると考えております。これは、今日の教育課題として文部科学省が重視する、道徳教育や社会で必要とする資質・能力の育成に通じると

ころであり、「校訓」に込められた思いと重なり、長い年月を超えた不易な教育の原点を感じるところであります。磐田農業高校の伝統は重い、だからこそその重さを感じつつ、伝統を引き継ぐ思いを強くするとともに、この伝統を受け継ぎながら時代の変化に応じて変えていくことが私の使命だと考えています。

今日の社会変化の大きさは各メディアが伝えるようにその激しさを増しています。教育界においても大きな変化を要求されています。特にここ数年は、教育関係法規の改正や学習指導要領の告示、様々な教育行政の変化及び学校現場に求められる取組等数えきれないほどです。しかし、流行に追われ、大事なことを忘れず、「不易と流行」をしっかりと見極めていきたいと思っております。

本年度当初、校長として教職員にお願いしたことをご紹介いたします。それは、校訓を念頭に教育活動を推進していくことです。特に高品性については、上皇が皇太子だったころ、その教育係を務めた、元慶応義塾大学塾長でもある小泉信三氏の話を用いて説明いたしました。小泉氏は皇太子を教育するに当たり「最も大切にすることは何か？」との記者の質問に対して、それは「強き人格である」と答えたと言います。もう少し分かりやすく教えて欲しいという記者に対して、「強き人格とは、人を思う心である」と答えたそうです。皇太子への教育、これは天皇となるための教育であり、日本教育の基本ともいえる教育基本法第一条に掲げられる「人格の完成」とも通じるところであります。本校の教育目標である校訓に通じるところであります。「人を思う心」は、これまで、そしてこれからも本校の教育の柱である「高品性」「重労働」とともに大切にしていきたいと思っております。

全ての教職員は、心をひとつにして磐田農業高校の教育目標に則り、長期的・総合的視点に立つとともに磐田農業高校で教育することに誇りを持ち、全力を尽くして生徒一人一人の教育に専念する所存であります。

同窓生の皆様におかれましても、今日の高等学校における教育の在り方等にも深い御理解をいただき、本校発展のために今まで以上に御指導、御鞭撻をいただきますと共に、御支援くださいますようお願い申し上げます。



支部だより

関東支部

海野 亘



昨年7月10日に総会を開催しましたが、出席者は5名でした。29年度には休会を提案しており、今回が最後の形だけの総会となりました。

これまでの間、多くの方から何かとお世話になりましたことに感謝申し上げます。



浜松支部

大石 良夫



平成31年2月に同窓会合同浜松支部総会が行われ各地域の役員22名と那須野校長、大場、佐藤先生の御出席をいただきました。事務局の山本さんの司会により支部長挨拶、校長より学校の近況報告があり、榎谷顧問の乾杯により懇親会にうつりました。



静岡支部

築山 恒男

当支部総会は、例年十月、静岡市内の催場において開催している。

平成二十九年度総会は、平成三十年十月十六日、午後六時〇〇分から開催した。

- * 出席者、会員五人（会員六十九人中）
- * 来賓、会頭、学校長、同窓会担当者
- * 議題、平成二十九年度事業報告及び収支決算報告、支部活動休止の確認
- * 懇親会

瑞穂に寄せて

磐田支部 青島 一彦



瑞穂の意味を考えてみました。辞典を引けば、みずみずしい稲の穂と書かれています。

更にこの言葉を煎じ詰めれば、我が国日本の美称であります。

農業高校の使命は作物を作る手法を学ぶだけでなく、国の将来を担う卒業生、そして国家の荒廃を防ぐ大きな役割があると思います。同窓会誌瑞穂の名称を付けた由来は、美しい国を維持しそれを担う卒業生のための会誌のはずであります。

今、その使命が少しずつ崩れ去ろうとしております。改めて考え直す時を迎えているような気がしてなりません。

稲穂の黄金色の美しさは、我が国が天から与えられた特権であるといっても過言ではないと思います。近い将来どんな学校になっていくか今改めて関心を持ち始めました。

次は、細田多次郎校長の言葉、かつての校訓ともいわれている木鐸精神を考えてみたいと思います。

校舎



昭和29年 卒業アルバムより



昭和50年 卒業アルバムより



現在の校舎と講堂

平成31年 山林実習



昭和26年 山林実習



体育後援会

野球部創部117年目の快挙

同窓会体育後援会長 71回卒 鈴木 克美

令和元年を迎え、同窓会の皆様方におかれましてはますますご清祥にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

平成最後となる春季高校野球西部地区大会の3回戦において、磐田南高を相手にエース相場の粘投、4安打3得点の栗田主将と水谷・落合の長打、計15安打を放ち、11対4で野球部創部117年目の春県大会初出場を決めました。今後の活躍が楽しみです。

さて、体育後援会は同窓会の皆様方や各支部よりご支援とご協力をいただき、本校の名誉と生徒の志気を高揚するため、体育活動等諸行事の振興を図り、後援を行うことを目的とし、運動部への大会参加助成と部活動を強化する目的の施設設備充実及び運動部の現状報告等を行っています。

生徒たちは日々努力を重ね、また顧問やコーチの熱心なご指導により、各種大会において素晴らしい成果を上げています。

(令和元年5月寄稿)



転載禁止



● 平成30年度の主な成績 ●

【水泳部】

東海高等学校総合体育大会

200m自由形	4位	猪股萌々花 (浅羽中出身)
400m自由形	2位	猪股萌々花 (浅羽中出身)
200m背泳ぎ	8位	樋口 朋花 (磐田南部中出身)
100m平泳ぎ	4位	水野 美鈴 (新居中出身)
100mバタフライ	8位	新井はる佳 (磐田一中出身)
200mバタフライ	6位	新井はる佳 (磐田一中出身)
400mメドレーリレー	6位	樋口 朋花・水野 美鈴・新井はる佳・猪股萌々花 (磐南中出身) (新居中出身) (磐一中出身) (浅羽中出身)

800mフリーリレー 8位

猪股萌々花・新村 りこ・落合 真愛・野中 咲歩 (浅羽中出身) (竜洋中出身) (神明中出身) (鷺津中出身)

全国高等学校総合体育大会出場者

200m自由形	猪股萌々花 (浅羽中出身)
400m自由形	猪股萌々花 (浅羽中出身)
100m平泳ぎ	水野 美鈴 (新居中出身)
200mバタフライ	新井はる佳 (磐田一中出身)
400mメドレーリレー	樋口 朋花・水野 美鈴・新井はる佳・猪股萌々花 (磐南中出身) (新居中出身) (磐一中出身) (浅羽中出身)



400mフリーリレー
 中野 小夏・小林 由奈・水野 美鈴・猪股萌々花
 (焼津大富中出身)(袋井中出身)(新居中出身)(浅羽中出身)
 800mフリーリレー
 猪股萌々花・新村 りこ・落合 真愛・野中 咲歩
 (浅羽中出身)(竜洋中出身)(神明中出身)(鷺津中出身)

福井国体出場者

少年女子A 400mメドレーリレー
 水野 美鈴(新居中出身) 7位
 400m自由形
 猪股萌々花(浅羽中出身)
 少年女子B 400mフリーリレー
 猪股萌々花(浅羽中出身) 7位

【陸上競技部】

東海高等学校総合体育大会出場者
 走高跳 7位 石川 大貴(竜洋中出身)
 砲丸投 星之内 天(旭が丘中出身)
 円盤投 星之内 天(旭が丘中出身)
 東海高等学校新人陸上競技大会
 やり投げ 4位 田畑 美羽(磐田南部中出身)
 棒高跳 出場 樽松 千紘(浅羽中出身)



東海選手権出場者

円盤投 星之内 天(旭が丘中出身)
 やり投げ 田畑 美羽(磐田南部中出身)
 女子400mリレー
 安間 音帆・加藤 桃佳・鈴木 結衣・小松原麻未
 (神明中出身)(袋井南中出身)(袋井中出身)(浅羽中出身)
 女子1600mリレー
 向山 友確・安間 音帆・加藤 桃佳・石田 碧衣
 (袋井中出身)(神明中出身)(袋井南中出身)(旭が丘中出身)

【馬術部】

東海地区高等学校馬術競技大会出場者(全国大会出場)
 金原 小春(天竜中出身)・鈴木 真依(袋井中出身)・
 黒島 小夏(旭が丘中出身)
 東海高等学校馬術王座決定戦出場者
 松浦 菜月(天竜中出身)
 全日本高等学校馬術競技大会出場者
 黒島 小夏(旭が丘中出身)・松浦 菜月(天竜中出身)
 大里あかり(磐田南部中出身)
 全日本高校生自馬選手権大会
 松浦 菜月(天竜中出身) 8位
 東海高等学校馬術競技新人戦
 大里あかり(磐田南部中出身) 2位



● 平成30年度体育後援会助成先 ●

大会助成

水泳部 高校総体東海・全国大会、ジャパンオープン
 陸上部 高校総体東海大会
 馬術部 高校総体東海・全国大会、全国地馬大会、全日本ジュニア

部活動助成

水泳部 水中掃除機、国体・東海・県選抜合宿
 陸上部 棒高ポール、やり、東海選抜合宿
 男子バレーボール部 ユニフォーム

学校生活



みかん収穫実習風景



花文字制作風景



販売実習風景



平和を願う日



53回卒 鈴木 徹 氏

同窓会役員名簿

2019. 6. 24

役職名	回数	氏名
顧問 副会 理事 監事	53	藤森和 弥進
	57	藤森久 久
	64	鈴木太田 平
	68	太田之野 隆
	69	星山 彦
	69	鈴木木 勝明
	70	河元島 直
	63	元場井 千真
	70	酒早川 勝次
	73	早原田 加
	73	原藤多 豪
	75	加根津 康
	77	根神谷 富美
	80	神大石 恵子
	91	大鈴木 安文
69	川島 弘雄	
69	川島 昇	
63	海野 巨樹	
72	板垣 秀	
東支部長 伊豆殿場 富士吉原 清庵(庵原清水) 静岡 志太 榛原 大須賀 大東濱岡 菊川小笠 掛川野 春森 磐袋田 袋井 天竜 浅羽 福田 豊田 竜洋 佐久岡 水間 浜窪 湖北 湖南 西松 浜引 引松 関西 南米	68	服部 藤徳
	68	石川 正巳
	54	小野 和民
	76	藤森 敦
	62	土屋 将夫
	73	岩倉 寿
	71	石原 潔
	76	新大堀 治
	73	大堀 正孝
	68	大場 孝一
	56	青島 彦
	69	井中 雄一
	62	浅谷 彦郎
	68	安井 政秀
	69	星野 次
69	白川 悦郎	
66	村松 勝徳	
77	藤澤 徳	
72	三室 進	
78	耳塚 均	
70	大村 厚	
60	吉原 熊	
63	大石 良	
65	兼子 俊一	
56	大箸 俊之	

編集後記

お待たせしておりました同窓会報「瑞穂」第32号を2年ぶりに発行することが出来ました。これも同窓会皆様のご協力の賜と、関係各位に心から感謝申し上げます。

本同窓会は、平成30年3月に121回卒業生200名と31年3月に122回生202名を迎え入れ、会員総数21,355名となりました。今後も母校発展のため同窓会皆様方のご支援とご協力をお願いいたします。

令和初となる今号より8ページオールカラーで隔年発行となり、会員の皆様方には郵送でのお届けとなりました。生まれ変わった「瑞穂」をこれからもよろしくお願いいたします。

また同窓会では、弔電を打たせていただいております。ご連絡をお願いいたします。